



にじいろだより

木々の葉っぱが散り、寒さも一段と厳しくなってきました。まわりを見わたせば、クリスマスツリーやイルミネーションがキラキラと輝き、ポインセチアの赤い色が、寒さを忘れさせてくれるかのようにあちこちで見られるようになりました。

日に日に気温が下がり寒くなってきています。手洗いうがいなどを心がけて、体調管理に気をつけていきましょう。



溶連菌感染症

溶連菌（ようれんきん）感染症とは、溶血性連鎖球菌という細菌による感染症で、喉の痛みを伴う咽頭炎の2割程度がこの菌が原因と言われています。5～10歳くらいまでの子どもがかかりやすく、発熱で気づかれることが多く、咳やくしゃみなどでうつります。



2～5日の潜伏期間の後、喉の痛みや扁桃腺が腫れる症状から始まり、頭痛・体のだるさなど、風邪の症状と同時に38～39℃の高熱が出ます。発熱から2～3日経つと、首・胸・手首・足首に粟粒状の発疹が現れて強いかゆみを伴い、やがて全身に広がります。同時に、舌にイチゴ状の小さくて赤いブツブツとした発疹が現れます。

溶連菌感染症と診断されたら、抗生物質を10日から2週間ほど服用します。早い時期から服用するほど、治療効果があると言われています。発症から5日ほど経つと、熱も下がり発疹や喉の痛みも治まります。予防には、手洗い・うがいが基本です。

熱があるときは、水分補給を十分にしましょう。また、喉の痛みがあるため、熱いもの・刺激物・柑橘系の果物は避けましょう。回復後、まれに急性腎炎やリウマチ熱にかかることがあります。症状が消えても医師の指示があるまでは、薬の服用をやめないようにしましょう。



11月利用のおともだち



溶連菌感染症は 治った後も検査を受けて

溶連菌感染症は、突然の高熱、のどの真っ赤なはれ、かゆみのある発疹が全身に広がるなどの症状が出ます。抗菌薬を飲めば治りますが、大切なのは、症状が治まった10日～2週間後に1回、さらに1か月後に1回、尿検査を受けること。「急性糸球体腎炎」などの合併症を起こしていないか確認するためです。忘れずに受診しましょう。



冬至にすること

一年で最も昼が短くなる冬至。運がつくとして「ん」のつく食べ物のカボチャ（なんきん）を食べます。昔は夏が旬のカボチャを冬まで保存し、貴重なビタミン源として冬に食べました。この日にカボチャを食べると、風邪をひかないといわれます。カボチャと小豆を煮た「いとこ煮」を食べる地方もあります。ユズ湯は、ユズの強い香りで邪気を払うとされています。ユズの成分が血行を促進し、身体をあたためて風邪を予防します。



★★★病児保育室説明会★★★

11月5日(火)に病児保育室説明会を開催し、3名の保護者の方の参加がありました。お忙しい中、ご参加ありがとうございました。



予約受付 電話：0282-86-5505 内線：5955

月～金曜日 7時15分～18時00分

ご利用は申し込み順になります。

まずは、お問い合わせください。

獨協医科大学病院 病児保育室にじいろキッズ



11月利用状況

病児利用件数 8件
キャンセル 1件